

風水害等に備えて



大雨情報をキャッチ! こんなときのわが家の安全対策

大雨注意報・警報・特別警報(浸水害・土砂災害)の発表基準

下記に併せて、洪水注意報・洪水警報が発令されます。

| | |
|---------------|---|
| 大雨注意報 | 大雨によって災害が起こるおそれがあると予想される場合 |
| 大雨警報 | 大雨によって重大な災害が起こるおそれがあると予想される場合 |
| 大雨特別警報 | 台風や集中豪雨により数十年に一度の降雨量となる大雨が予想され、若しくは数十年に一度の強度の台風や同程度の温帯低気圧により大雨になると予想される場合 |

雨の強さと降り方 (単位:mm/時)

| 10以上~20未満 | 20以上~30未満 | 30以上~50未満 | 50以上~80未満 | 80以上~ |
|---|--|--|--|--|
| 「やや強い雨」 「ザーザーと降る」 雨の音で話し声がよく聞き取れない。 | 「強い雨」 「どしゃ降り」 ワイパーを速くしても見づらい。側溝や小さな川があふれる。 | 「激しい雨」 バケツをひっくり返したような激しい雨。山崩れ、がけ崩れが起きやすくなり危険地帯では避難の準備が必要。 | 「非常に激しい雨」 滝のように降り、あたりが水しぶきで白くなる。マンホールから水が噴出する。がけ崩れが起こりやすい。多くの災害が発生する。 | 「猛烈な雨」 息苦しくなるような圧迫感があり、恐怖を感じる雨。雨による大規模な災害の発生する恐れが強く、厳重な警戒が必要。 |

台風

日本には毎年多数の台風が接近あるいは上陸し、たびたび大きな被害をもたらします。台風の接近が予想される際は、台風情報に十分注意し、被害のないように備えることが必要です。

台風の大きさや強さの目安

| 大きさ | 風速15m/秒以上の半径 | | 強さ | 最大風速(m/秒) | |
|-----|--------------|-----------------|-------|-----------------|-----------------|
| | 大型(大きい) | 500km以上~800km未満 | | 強い | 33m/秒以上~44m/秒未満 |
| | 超大型(非常に大きい) | 800km以上~ | 非常に強い | 44m/秒以上~54m/秒未満 | |
| | | | 猛烈な | 54m/秒以上~ | |

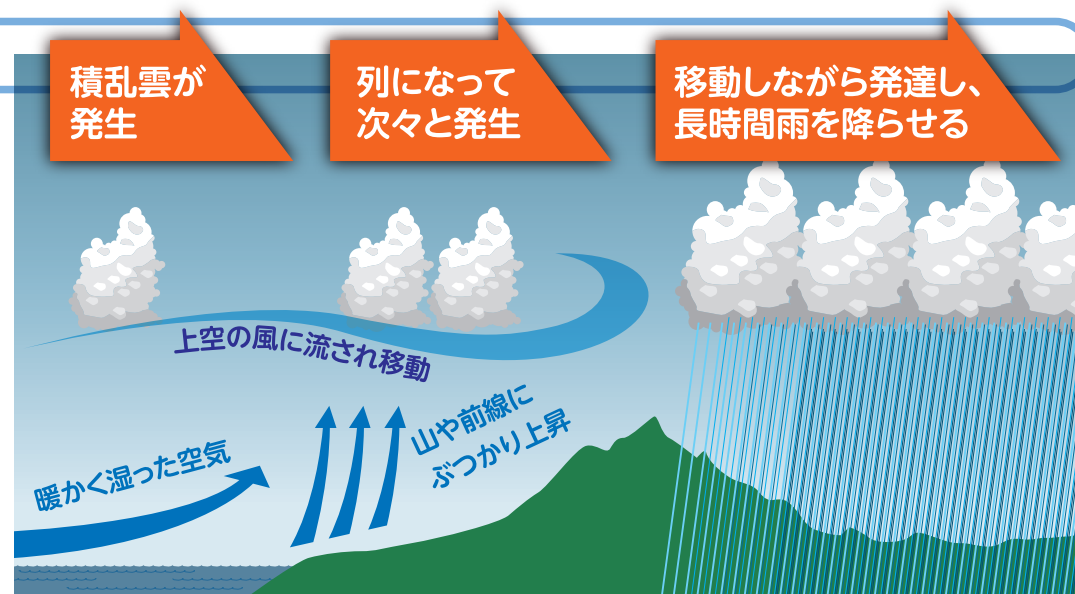
集中豪雨

集中豪雨は、前線や低気圧などの影響や雨を降らせやすい地形の効果によって、積乱雲が同じ場所で次々と発生・発達を繰り返すことにより発生します。激しい雨が数時間にわたって降り続き、河川の氾濫や土砂災害などによる大きな被害をもたらすことがありますので、気象情報に十分注意し、万全の対策をとることが必要です。

- ラジオやテレビなどの気象情報に注意をする。
- 非常持ち出し品を準備しておく。
- 飲料水や食料を最低でも3日分、できれば1週間分確保しておく。
- 町や防災関係機関の広報をよく聞いておく。
- 早く帰宅し、家族と連絡を取り、非常時に備える。
- 危険な地域では、いつでも避難できるよう準備をする。
- 停電に備え懐中電灯や携帯ラジオを用意する。
- 浸水に備えて家財道具は高い所へ移動する。

線状降水帯とは

次々と発生する発達した雨雲(積乱雲)が列をなした、組織化した積乱雲群によって、数時間にわたってほぼ同じ場所を通過または停滞することで作り出される、線状に伸びる長さ50~300km程度、幅20~50km程度の強い降水をとまなう雨域。線状降水帯の多くは暖候期に発生し、大きな災害の要因となる集中豪雨を引き起こすことがあります。



水害時の心得

被害の軽減

扉の下の隙間から污水が入ってくるので、「土のう」や板などで前面を囲み、タオルで隙間をふさぎます。また、ポリタンクなど軽い物は事前に屋内に移しましょう。



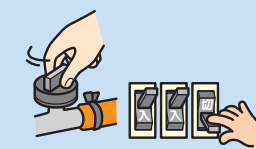
避難の呼びかけに注意を

危険が迫った時には、防災行政無線や広報車などから避難の呼びかけをすることがあります。呼びかけがあった場合には速やかに近所に声掛けしながら避難しましょう。



避難の前に確認を

避難する時は、電気のブレーカーを落とし、ガスの元栓を閉め、床下の通気口などをふさぎ、戸締りを確認しましょう。



避難所までの移動

車での避難は、歩行者・緊急車両の妨げになります。また、浸水すると動かなくなるので使わないようにしましょう。風雨が激しくなる前に車両または徒歩で避難しましょう。風雨が激しくなってきたときは浸水の恐れがあるので車両ではなく徒歩で避難しましょう。



危険なところには近寄らない

切れた電線のそばなど、危険な場所に近寄らないようにしましょう。また、氾濫水には污水が混ざっているため、子供などがさわらないように気をつけましょう。



動きやすい格好で

動きやすい服装で、軍手をはめ、ヘルメットがある場合はかぶり、はき物は水に浸かっても歩きやすいものを選びましょう。レインコートは上下が分かれているタイプで目立つ色のものがよいでしょう。



水面下は危険です。2人以上で避難を

浸水した場所を歩く時は、長い棒を杖がわりにして、マンホールや側溝がないか水面下の安全を確認し、2人以上での行動を心がけましょう。



歩ける深さ男性約70cm、女性約50cm

洪水の場合、歩ける深さは男性で約70cm、女性で約50cmまで。それ以上になったら高い場所で救助を待ちましょう。



川の氾濫等

雨量の増加によってもたらされる氾濫には、川から水があふれたり堤防が決壊して起こる「外水氾濫」と、街中の排水が間に合わず、地下水路などからあふれ出す「内水氾濫」の2タイプがあります。

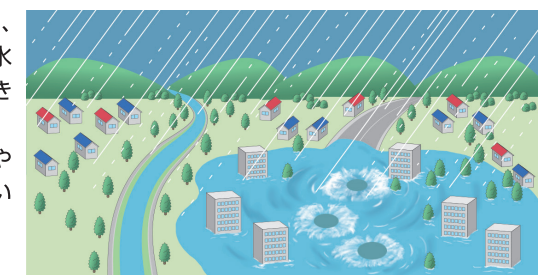
外水氾濫

大雨の水が川に集まり、川の水かさが増し堤防を超える、あるいは堤防が決壊させて川の水が外にあふれておきる洪水。氾濫が起きると一気に水かさが増すので、最大の注意が必要。



内水氾濫

その場所に降った雨水や、周りから流れ込んできた水がはけきれず溜まって起きる洪水。的確なタイミングで警報や避難勧告を出すのが難しいため、注意が必要。



浸水の深さについて

